

法蔵寺の歴史(二十一)

赤門参道の石畳

法蔵寺の正参道

法蔵寺を訪れるとき、多くの方は坂道を車で上ると思います。この道は車参道です。法蔵寺への正式な参道は赤門を通る石畳の方です。

念仏講による奇進

法蔵寺の石畳の参道は、大きな真石で造られています。赤門脇に建つ石灯籠の奇進碑に、その記録が残っています。そこには「宝歴八年、当邑若衆四十八名」により奇進と書かれています。西暦は一七五八年。江戸時代、九代将軍家重公の時代です。法蔵寺は十七世諦譽(たいよ)上人の時でした。諦譽上人は宝歴十二年十二月に逝去しました。

隆盛をきわめた法蔵寺

石屋さんに聞くと、これだけの石を敷き詰めるのは大変な事だとおっしゃいます。実際境内の舗装工事の際に掘り起こされた敷石は、表面はノミ削り、底面は自然石のかなり重く大きいものでした。大変な作業だったことでしょう。当時の信仰の篤さが偲べれます。

この石畳が完成し、法蔵寺十九代純譽上人の時になると、七堂伽藍を供えた壮大な寺院の寺院になったのでした。



赤門前の奇進碑(石灯籠)

みんなで決めた?

えいたいくよう

永代供養の「コマ

あるとき、ある方からこんな相談を受けました。

「子どもや孫に迷惑をかけたくないから、墓じまいをして、永代供養にしたいのですが：。」

最近話題になってきている供養方法をテレビで知ったそうです。

永代供養とは、先祖代々の墓をたたみ、お骨をお寺に預け、末代までの供養をお寺に依頼する供養の方法です。

ただ、いくつか注意することもあるので確認しました。

「良く分かりました。ところでお子さんなど家族には相談したのですか?」

「いえ、自分で判断してそれが良いと思って相談にきました。」

「そうですか。受付はいつでも大丈夫なので、まずは一言、家族に話してみてもいいのでは?」

うですか?」

後日、その方がお寺に来て言いました。

「あのあと、家族にその話題をしたら、えらい怒られましたね。先祖さんのことは見るつもりだし、両親も永代供養にするつもりはない!とね。」

「てっきり自分達や先祖、お墓については、面倒なことと思われるのではと思っていましたが、そうばかりとは限らないのですね・・・。」

最近、永代供養の相談が増えました。しかし、家族の同意がないことでトラブルも見られます。自分は良かれ思っている、家族はそう思っていないこともあるでしょう。同じ家族でも考え方はいろいろです。永代供養という形で供養の選択肢は増えました。しかし、お墓の事は一生のことです。よくよくご家族で話し合った上で決めになって頂きたいと思います。合掌